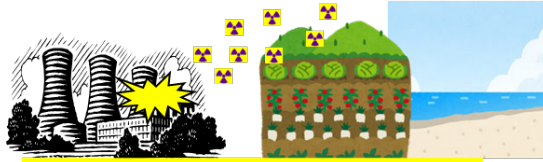


福島第一原子力発電所事故後の食品中の放射性物質に関する研究

2011年3月 福島第一原子力発電所事故の発生
放射性物質が環境中に放出



放射性物質による食品汚染が発生

事故直後

暫定規制値による規制

食品安全委員会による評価

2012年4月

現行の基準値の設定と規制

食品区分	基準値(Bq/kg)
飲料水	10
乳児用食品	50
牛乳	50
一般食品	100

※放射性セシウムとして



国立医薬品食品衛生研究所では...

- ① 日常の食事から受ける放射性セシウムの放射線量はどれくらいか
- ② 市場に流通している食品中の放射性セシウム濃度はどれくらいか
- ③ 家庭の調理により食品中の放射性セシウムを減らすことはできないか など

食品の安全・安心につながる調査研究を実施

① 食事からの放射性セシウム年間線量の推定

お店で食品を購入



調理

平均的な食事内容

食事量で混合

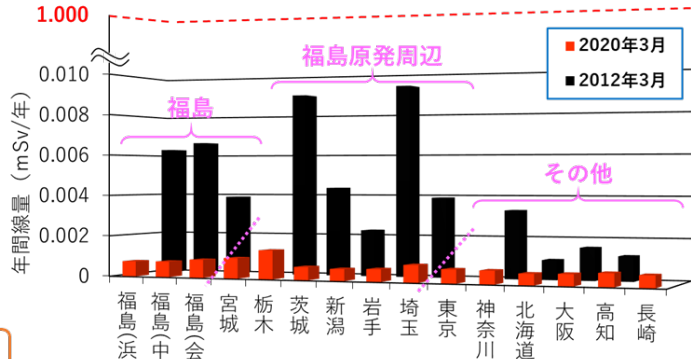
放射性セシウム

濃度を測定



平均的な食事を食べた時の年間線量を推定

【地域別調査結果(過去と現在)】



- ✓ 事故半年後の最高値(0.019 mSv/年)でも上限値(1 mSv/年)の50分の1以下
- ✓ 基準値による規制や生産現場の除染対策などにより、年間線量は大きく減少(特に原発の周辺地域)

一般的な食事を食べている分には、放射性セシウムから受ける年間線量は十分に低いレベル

② 流通食品中の放射性セシウム濃度調査

産地：東北、関東、甲信越地方の17都県

購入場所：スーパーマーケット、直売所など

対象品目：農・畜産物、**山菜、きのこ**など



管理がしやすい食品

- 農産物(野菜・果実・穀類など)
- 畜産物(肉類・たまごなど)



農地の除染やエサの管理などにより汚染を減らすことができる

管理が難しい食品

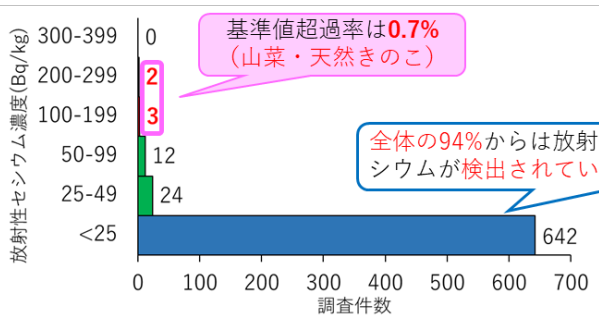
- 天然山菜
- 天然きのこ
- 水産物
- 野生鳥獣肉



除染できない山や湖などで生育するため汚染を減らすことが難しい

流通している食品中の放射性セシウム濃度を調査

【2019年度の調査における放射性セシウムの濃度分布】



基準値超過率は0.7%
(山菜・天然きのこ)

全体の94%からは放射性セシウムが検出されていない

- ✓ 基準値超過率は非常に低く、流通している食品は十分に管理されている
- ✓ 天然の山菜、きのこ等では放射性セシウム濃度が高いことがあり、注意が必要

③ 調理による放射性セシウム量の変化



調理前(食材)

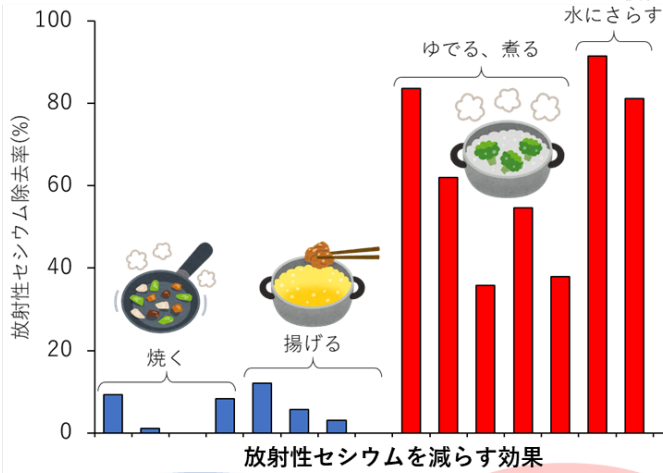
調理



調理後(食べる状態)

調理で放射性セシウム量はどう変化するかを検討

【調理による放射性セシウムの除去率】



小さい

大きい

調理方法を工夫すれば、食品中の放射性セシウム量を減らすことができる